

2017 年度(平成29年度)学校評価自己評価表

済美中学校区	校番 18	福山市立 瀬戸小 学校
最終更新日	2018年(平成30年)2月21日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○かかわり合いを大切にしながら、子ども同士がつながる教育活動の推進</p> <p>○地域へのボランティア活動などを通して、自己肯定感を高め、地域貢献できる人材の育成</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○「基礎・基本」定着状況調査については、小中ともおおむね定着している。</p> <p>○無言清掃の取組を通して、児童生徒の意識が高まり、集中して清掃に取り組む児童生徒が増えた。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○課題発見・解決力(自ら考え学ぶ力) ○コミュニケーション力(言語活動)</p> <p>○共感的人間関係・自己決定力・自己存在感(生徒指導の三機能)</p> <p>① 生き方を判断するための「基礎学力」を身につける。</p> <p>② 人格の発達や豊かな人間性を身につける。③ 目標に向かって努力し、「チャレンジ」する。</p> <p>21世紀型スキル&倫理観の育成</p> <p>○問題発見解決学習を授業に取り入れる。</p> <p>○根拠を持ったわかる表現をさせる。</p> <p>○無言清掃に取り組ませる。</p> <p>○小中合同あいさつ運動を行う。</p>
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>○自己肯定感をもち、自分から進んで学ぼうとする子どもの育成</p> <p>○地域社会のために役に立ちたいという意欲をもった子どもの育成</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p> <p>1・2年生</p> <p>3・4年生</p> <p>5・6年生</p>	<p>○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○共感的人間関係</p> <p>・「めあて」と「まとめ」をていねいにノートにししゃできる。</p> <p>・はっぴょうするとき、「わたしは(ほくは)、～です。」といういいかたができる。</p> <p>・だれにでもあかるく、げんきのいいあいさつができる。</p> <p>・分かったことや考えたことを、図や絵などを使ってかくことができる。</p> <p>・あいてに分かりやすいように考えて発表できる。</p> <p>・だれにでも明るく元気のいいあいさつができる。</p> <p>・気づきなど自分の考えを入れたノートをとることができる。</p> <p>・相手や目的に応じて分かりやすいように工夫して発表できる。</p> <p>・自分からすすんで相手を意識してあいさつができる。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら考え学び、貢献する子どもの育成</p>	<p>教科等</p> <p>理科 ・ 図工科</p>	<p>「科学的に思考し、表現できる子どもの育成 ～実感を伴った学びと、かく活動を通して～」</p> <p>実感を伴った学びの場を設定し、理科における問題解決場面において言語活動の充実を図り、かく活動に重点を置くことで、科学的なものの見方を育てる。</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>○「基礎・基本」は概ね定着しているが、様々な場面への活用は不十分である。</p> <p>○学ぶ意欲は出てきたが、行動化までには至っていない。</p> <p>○あこがれの先輩の行動から学び、やさしさが育ってきた。</p> <p>○地域の清掃活動やボランティア活動に参加する児童が増えてきた。</p> <p><授業></p> <p>○理科教育研究は、「不思議だ」で始まり問い続ける学習展開を目指している。</p> <p>○図工科教育研究で、表現することに自信をもたせる授業を目指している。</p> <p>○「めあて」を意識し、本時の学習をふり返ることが定着してきた。</p> <p>○ペア学習で、反応を返したり質問したりすることは不十分である。</p> <p>○学びに対して意欲的になってきた。</p>	<p>研究</p> <p>主題・内容等</p>	<p>○児童が疑問をもった事柄の中から課題を見つける授業。</p> <p>○課題解決に向け、自力で調べたり考えたりして根拠をもとにまとめる授業。</p> <p>○解決方法を全体で話し合い、友達の考えから学び、自分の考えを伝える授業。</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 瀬戸 小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力% 達成 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況	力% 達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	21世紀型スキル&倫理観の育成	★	新規	「課題発見・解決力」、「コミュニケーション力」を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画一覧表を基に、授業を行う。 「めあて」と「まとめ」を整合させ、「ふり返し」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国標準学力検査(CDT)の全国平均を超える。 単元末テストで、達成率を85%以上 児童作文 	□CDT検査は1月実施予定。1学期国語・算数の単元末テストを実施。達成率 国語 85.0% 算数 85.6% □月1回テーマを決めて計画的に全校児童が作文を書いた。また、ゲストティーチャー等へお礼の手紙も書く。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の時間配分を考え「まとめ」、「ふり返し」をする時間をとり記入させる。 運動会や学習発表会での指導にも「めあて」「ふりかえり」を行う。 年度初めの計画に基づき作文を書かせ使ひでフィードバックする。 	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 □CDT学力検査を実施。(1月) 国語 77% 算数 77% □国語・算数の単元末テスト 国語 80.5% 算数 81.0% 「めあて」と「まとめ」を整合させる(78.5%) 「めあて」と結び付けてのふり返しをさせる。(74.7%) ◎「めあて」をもたせ学習させることが概ねできた。ふり返しは内容を高めていくことに取り組んだ。 □月1回計画通り全児童が作文を書き自分の言葉で表現することができた。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 重点課題問題に対して類似問題を作成・実施し、習得を図る。個別指導も実施し、繰り返し取り組む。 国語科では条件を指定して文章を書かせたり大まかに全体を読み取ることを通して「書くこと・読むこと」に取り組む。算数科では、答えの求め方を根拠をもとに、自分の考えを図・表・言葉で表現させて「考え方」の力をつけることに取り組む。
4	豊かな心の育成		継続	児童の自己肯定感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童会の主体的な活動(一日一善)を支える。 縦割り掃除で児童間の学び合いを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己肯定感(肯定95%以上) 無言掃除等のふり返し 	□「自分には良いところがある」児童97% 様々な学校行事などを通して、自己肯定感が高まっている。 □「無言掃除ができています」児童97% 高学年が低学年に向けて掃除の手順等教	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低い児童に対して、担任以外の教員からも肯定的評価を積極的に行っていく。 日々の振り返りを班長中心にしっかりと行うことで、無言掃除の徹底を行っていく。 	□「自分には良いところがある」児童86% □「無言掃除ができています」児童96% 学校全体で無言掃除をする風土ができてきた。 ◎異学年交流による自己肯定感・高まりがみられた。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低い児童を全教職員で共有し、多方面から声をかけていく。 朝会・放送等で表彰するなど肯定的評価を続けていく。

						えている姿を多く見かけるようになった。								
1	たくましい体の育成	新規	頑張ることのできる体をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 運動課題を設定し、継続して取り組む。 食への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して取り組む児童85%以上 「弁当づくりの日」を年4回設定 	<input type="checkbox"/> 音読カードに毎日行う運動のチェック欄を設け、継続して取り組むことができた。(89%) <input type="checkbox"/> 遠足・予備日・社会見学・運動会の計4回実施した。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 2学期中に体力アップ運動を行い、学年毎に決まった運動に取り組ませる。達成できていない児童は個別に指導をする。 アンケート結果を集計し、保護者に伝えていく。 	<input type="checkbox"/> 日々の体育の授業で上体起こしや長座体前屈につながる運動を取り入れることができた。 <input type="checkbox"/> 「弁当作り」の日を計4回実施し、食への関心が高まってきた。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業で継続して運動に取り組ませる。(2月末に上体おこしや長座体前屈の再測定を行う。)
4	開かれた学校づくりの推進	継続	保護者や地域とのつながりを深める。	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・学年便りを定期発行する。 ふるさと学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校満足度(90%以上) 地域に貢献できたか(作文) 	<input type="checkbox"/> 学校満足度保護者アンケート92.0% <input type="checkbox"/> 地域清掃へ40人以上の児童が参加、登校時ごみを拾う児童も増えている。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校や学級の取組みを通信等で発信する。 児童の地域への関わりを積極的に発信する。 	<input type="checkbox"/> 学校満足度保護者アンケート96.0% <input type="checkbox"/> 学校だよりや校長便り・学年便りホームページ等で児童・生徒の頑張りを伝えることができた。 <input type="checkbox"/> 地域教材を取り入れゲストティーチャーを招聘し学ぶことから地域に愛着を持ち作文に学習したことをまとめることができた。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 便り等で学校の取組や児童の様子等、時期を逃さず発信する事で保護者や地域等の繋がりを強めていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。